



世界脳卒中デー2010について

2010年10月29日の金曜日は“世界脳卒中デー”です。

年齢、性別を問わず、6秒ごとに1人ずつ、誰かがどこかで脳卒中で亡くなっています。最愛の兄弟、妻、夫、娘、息子、恋人、母親、父親、友人達の尊い命を考えると、この数字はとてつもなく大きなものです。

世界脳卒中機構（WSO）は、脳卒中の世界的な蔓延に対して、緊急に対応することを決意し、10月29日の世界脳卒中デーに“6人に1人”キャンペーンを開始することにしました。

このキャンペーンの目的は、地球規模の健康増進計画の中心に、“脳卒中との戦い”を位置づけることです。今、世界では、6人に1人が一生のうちに脳卒中を発症しています^(注)。WSOはこの事実を皆さんに知ってもらうため、“6人に1人”というテーマを選択しました。だれにでも脳卒中になる危険性があり、日頃から健康に気を配っておかないと、その危険性はさらに高くなります。

“6人に1人”キャンペーンでは、脳卒中の予防だけでなく、脳卒中を発症した方が、適切かつ継続的な介護と周囲の人の支えにより回復し、生活の質が向上することも訴えています。

このキャンペーンは2年間にわたり行われ、次の6つの簡単な目標に向かって行動することで、脳卒中発症の危険性を減らし、発症後の負担を軽減することを目指しています。

1. 自分の危険因子を知ろう：高血圧、糖尿病、脂質異常症が代表的な危険因子です。
2. 日頃から身体をよく動かして、定期的な運動に努めよう。
3. 健康的な食事で肥満を防ごう。
4. 飲酒はほどほどに。
5. たばこの煙を避けよう。喫煙者は直ちに禁煙外来を受診しよう。
6. 脳卒中の徴候（症状）を学び、発症時に分るようになろう。

60 歳以上では脳卒中が死因第 2 位となっており、15 歳から 59 歳においても 5 番目の死因です。そして脳卒中は、新生児を含む子供にも起こっています。

毎年約 600 万人方が脳卒中で亡くなっており、これは AIDS、結核、マラリアで亡くなる方を合わせた数よりも多いのです。これら 3 つの病気は、公衆衛生の支援活動の成功の目安になっており、世界中のメディアが関心を持ち、結果的に世界中の指導者、政府、そして市民社会の多くの部門を動かしました。

脳卒中には国境はありません。それぞれの国が別個に脳卒中の課題に取り組むこともできません。

脳卒中を発症した方々のために、さまざまな支持団体、患者支援ネットワーク、ボランティア団体、公衆衛生当局、医師、看護師、市民団体を含むその他の関係者の方々が協力し合って、脳卒中の、総合的な教育、支援運動、予防、治療、長期にわたる患者ケア・支援を続けるために、世界脳卒中デーが設けられました。

より詳しい情報は、世界脳卒中デーのホームページ <http://www.worldstrokecampaign.org/media/Pages/AbouttheCampaign.aspx> でご覧になれます。このキャンペーンに是非参加してください。そして、みんなで大切な命を守りましょう。

(注) 世界的には、6 人に 1 人ということで、バナーの写真では、その 1 人が影として示されています。日本のみでの統計では、5 人に 1 人の割合で脳卒中を発症し、9 人に 1 人が脳卒中でなくなっています。